interview

[ミュージシャン]

松本雅隆さん
（ロバの音楽座）

「ロバの音楽座」は24時間、子どもの音楽のことを考えているんです。

どれもこれも、はじめて見る楽器ばかり。それもそのはず、それはとうの昔に絶えてしまった古楽器や、オリジナルの創作楽器なのですから……。子どもとともに、ユニークな楽器をたずさえ、どこにも同じものがない、「ガランピー」な音楽を求め続けてきた「ロバの音楽座」。なんと今年で25周年を迎えるんですって！　10月には、25周年記念の連続ライブで、たくさんのファンとよろこびを分かち合ったところ。「あたたかな音」が、こころにしみわたる「ロバの音楽座」。その魅力と、これからの夢を、リーダーの松本雅隆さんにうかがいました。

月刊クーヨン 12 月号掲載記事より（2007）

　人物撮影（P83も）／泉山美代子

〈ロバの音楽座〉の根っこには、〈子どもに対する尊敬〉があります。

牛乳パックもガラスのビンも、「ロバの音楽座」の手にかかると、ものすごくたのしそうな楽器に変身！

新聞紙をカサカサー、クシュクシュッ、ビリビリー。そこにリズムが生まれ、音楽になっていくと、子どもたちは大喜び！

（「幼児音楽研究会20周年記念例会」でのライブより）

壁にぶち当たって古楽器と出会えた

どこか懐かしい音色と木の香りのする管楽器や弦楽器。それらを自在に演奏するのが「ロバの音楽座」。いったい、どんな経緯でこのスタイルになったのでしょう？

「ピアノは下手だったけど誰よりも音楽が好きで、ミュージシャンを夢見て入った音大なのに、入学直後、壁にぶち当たりました。自分が生かされる音楽は？　楽器は？　自分の役割は？　と迷っていたとき、大学の楽器博物館で中世ヨーロッパの古楽器と出会ったんです。ステッキのような形の素朴な木の笛を吹いたとき、「これでいいんだ！」と思いました。宝ものを掘り出したような感覚でしたね。一度絶滅した楽器だから、作法も奏法も自由だし。これだー！　と思った（笑）」

それから松本雅隆さんは、中世の絵画などを参考に、楽器の指使いや演奏のスタイル、果ては演奏者の暮らしぶりまで研究し、ときには古楽器の復元を行いました。

「ですが、日本で西洋の中世を再現することは不可能だし、自分にとって意味がない、と思ったんです。だから、中世のひとびとの、音とのつき合い方とか、当時のミュージシャンの心意気のほうを再現したかったんです」。

〈ロバの音楽座〉以前、1973年に結成した「カテリーナ古楽合奏団」はいまもなお、当時の曲を演奏するものの、現代に合う音づくりをしています。

音楽を自由にするのは子どもたちの好奇心！

カテリーナ結成から数年後「もっと自分の音に出会いたい」という思いに駆られ、松本さんは、ヨーロッパ放浪の旅に出ます。それは、街の音を聞き、大道芸人に出会い、さまざまな音を探す旅でした。

「旅に出る少し前から、中世の題材に閉じこめられない自由な音楽を求めはじめていました。それには、子どもたちと音楽を共有したらいいんじゃないか、という予感があったのですが、旅するなかで、その気持ちが固まっていきました。それで、旅から帰ってすぐ、全国を回って、子どもたちのために合奏するグループをやろう！と仲間にもちかけました。それが、〈ロバの音楽座〉なのです」

以来25年。3人ではじめたグループが、いまは7人となりました。

「それぞれに、自分なりの〈子ども観〉をもったメンバーが、だんだんと集まってきました。ぼくたちは、結成のときのルールで、本気で子どもの音楽をつくるためにほかの仕事はしない、という約束をしました。だから〈ロバの音楽座〉は24時間、365日、子どもの音楽を考えてきたんです」

アーティストが生活していくのがとても困難なこの国で、その決断は、ものすごく勇気のいることだったはずです。

「結成当初は、たとえば幼稚園や保育園で公演をするにしても、人形劇などと違って音楽に対してなかなか理解が得られませんでしたが、この25年で状況はずいぶんよくなったと思います。これだけIT化が進む中で、よりナチュラルなほうへ、より本質的なもののほうへ、と揺り戻しがきています。〈ロバの音楽座〉はそういう意味で、先駆的な役割を果たしてきたんじゃないかと思っています」

絵本のような音楽から落書きのような音楽へ

子どもから老人まで、みんながたのしめる。そんな「絵本のような音楽」を、〈ロバの音楽座〉は目指してきました。

（「幼児音楽研究会20周年記念例会」でのライブより）

interview

ロバハウスのLIVE
東京・立川のロバハウスでは、毎月ライブコンサートが開かれています。多彩で素敵なゲストも登場するので、スケジュールは要チェック！
問い合わせは、東京都立川市幸町6-22-3　TEL042-536-7266
FAX042-536-7968
e-mail:info@roba-house.com
http://www.roba-house.com/index.html

［まつもと　がりゅう］
古楽器や空想楽器で音楽の夢を運ぶ〈ロバの音楽座〉、中世・ルネサンス音楽のパイオニア「カテリーナ古楽合奏団」を主宰。東京・立川の「ロバハウス」を拠点に、全国で演奏活動を展開中。
NHK「からだであそぼ」やアニメ「パンツぱんくろう」などの音楽を担当。
CDは「ガランビーボロン」「ジグ・空想の船」「トーナドーナ」など、DVDに「ロバの音さがし」（すべてクルムホルンレコードより発売）。

「これからは〈落書きのような音楽〉ができないものか、と画策しています。本気で落書きすると、どんな音になるのか。それは心地よいのか、みんなと共有できるものになるのか。そんなことを考えながら、これからの〈ロバの音楽座〉の〈音探し〉をしていきたいと思っています」

いたずらな少年のように、松本さんは語ってくれました。

「〈ロバの音楽座〉の根っこには、〈子どもに対する尊敬〉があります。古楽器を見ると、大人は〈特殊な楽器〉と思います。でも、子どもには、特殊も普通もなくて、全身でぼくたちの音楽と出会い、たのしんでくれます。子ども時代に、こういったやわらかであたたかい音を聞く経験は大切です。〈ロバの音楽座〉は、身の回りの音の世界と芸術の世界のかけ橋でありたい。子どもたちが〈ああ、音楽ってこれでもいいんだ！〉と思ってくれたら、うれしいです」

確かに、ライブでは、ささやくような古楽器の音色に、子どもたちは真剣に耳を傾けていました。〈ロバの音楽座〉が奏でる、あたたかい音楽は、これからますます、年齢を超え、ファンを増やしていくに違いありません。